

大阪メモリアルパーク古墳墓 使用契約約款

(目的)

第1条 本約款は、宗教法人不動教会が運営・管理する大阪メモリアルパーク（以下「墓地」という。）に築造された石室型古墳墓（以下「古墳墓」という。）の後円部個別安置埋葬（以下「個別安置埋葬」という。）、前方部自然回帰埋葬（以下「自然回帰埋葬」という。）及び前方部合同永眠埋葬（以下「合同永眠埋葬」という。）の使用及び管理に関する基準を定め、その使用及び管理の適性を図ることを目的とする。

2 古墳墓を使用する者は、本約款及び、別に定めた規則等に従って古墳墓を使用しなければならない。

(管理者)

第2条 墓地の管理者は、宗教法人不動教会の代表役員（住職）とする。

2 管理者は、管理行為を管理者が任命する者に委託することができる。

(使用目的)

第3条 墓地は、墳墓の用に供する目的以外に使用することはできない。

(使用者の信仰)

第4条 古墳墓の使用者（以下「使用者」という。）は、宗教不問とする。

(祭祀)

第5条 使用者が古墳墓で行う祭祀行為は、原則として管理者と管理者が認める者がこれを執り行う。

2 古墳墓では、管理者が認める神職による年2回の御霊祭を執り行う。

3 使用者は、御霊祭以外に個別の法要を希望される場合、事前に管理者の承諾を得なければならない。

(永代使用申込の手續)

第6条 古墳墓使用を希望する者は「永代使用申込書」に住所、氏名の他、必要事項を記入し、発行から3カ月以内の本籍地と世帯全員の氏名を記載した住民票を添えて管理者に提出し、管理者の承認を得た後、永代使用料と、諸費用を所定の期日までに納付するものとする。

(永代使用料)

第7条 永代使用料（以下「使用料」という。）とは、使用者の古墳墓使用（以下「使用権」という。）を保証するための費用である。

2 古墳墓の使用期限は無期限とする。

3 既納の使用料は返還しない。

(永代管理費)

第8条 永代管理費（以下「管理費」という。）とは、墓地及び古墳墓の管理、清掃及び植栽の維持等に要する費用である。

2 既納の管理費は返還しない。

(永代使用承諾証の交付)

第9条 使用者は、使用料及び諸費用を納入し、管理者に住民票を送付することで、使用権を得ることができ、その証として永代使用承諾証（以下「承諾証」という。）の交付を受けるものとする。

2 承諾証の記載事項に変更が生じた時は、使用者は、速やかに管理者へ届け出るものとする。

3 使用者が承諾証を紛失した場合、使用者は、管理者の定める手続を経て承諾証の再交付を受けることができる。

(古墳墓の使用)

第10条 使用者は、第9条第1項が定める使用権を得てから、古墳墓を使用することができる。

2 使用者は、管理者に届け出て、古墳墓に使用者の親族の焼骨を埋蔵することができる。また、親族以外の者の焼骨を埋蔵する場合は、必ず事前に管理者の承諾を得なければならない。

3 使用者は、焼骨の埋蔵その他墓地本来の使用目的以外の目的のために古墳墓を使用してはならない。

4 使用者は、管理者の承諾を得ずに、他人に古墳墓を使用させてはならない。

(古墳墓の管理)

第11条 古墳墓の清掃、除草等を含む環境整備その他の管理については、管理者がその責任を負う。

(納骨と出骨の制限)

第12条 個別安置埋葬、自然回帰埋葬に埋蔵する焼骨は原則として5寸骨壺に入るものに限定する。ただし、5寸骨壺に収まりきらない焼骨は、合同永眠埋葬に埋蔵することができる。

2 個別安置埋葬への焼骨の埋蔵は、管理者が指定した収骨容器を使用することとする。

3 古墳墓に埋蔵される焼骨は粉骨を施した後に埋蔵するものとする。

4 使用者が納骨を希望し、焼骨を管理者にお預けいただいた時点で、大阪メモリアルパークにおいて実施する粉骨及び埋蔵に同意したものとみなす。

5 個別安置埋葬の使用者は、焼骨を管理者にお預けいただいた後、粉骨を施したうえで、「前室」に安置し、最終埋葬者の逝去後に、全ての焼骨を「後室」へ埋蔵するものとする。

6 個別安置埋葬の後室及び自然回帰埋葬、合同永眠埋葬に埋蔵された焼骨については、返還請求、改葬、分骨、追加納骨は認められない。

7 古墳墓へ埋蔵する焼骨は、管理者によるお預かり後、4か月以内に各古墳墓に埋蔵することを原則とする。

(古墳墓への立ち入り制限)

第13条 管理者が認めた運営管理職員以外は、何人たりとも古墳墓の墳丘に立ち入ることはできない。また、立ち入る際には、埋蔵場所の上に足を掛けてはいけない。

(使用権の継続)

第14条 使用者の死亡により、使用者の祭祀承継者がその地位を承継して古墳墓の使用を継続する場合、以後の連絡先及び、本約款を遵守する後見人を設定することができる。尚、使用者が設定した後継人が不在となった場合、新たな後見人を設定し速やかに管理者に届け出なければならない。

2 祭祀承継者が古墳墓の使用を継続しない場合には、書面をもって管理者にその旨を届け出るものとする。

(使用権の譲渡・転貸の禁止)

第15条 使用者は、使用権を第三者に譲渡及び転貸することはできない。

(住所・連絡先等の変更届)

第16条 使用者は、本籍、住所、氏名、連絡先等を変更したときは、速やかに管理者に届け出なければならない。

(使用権の消滅)

第17条 下記各号に該当したとき、使用権は消滅する。

(1) 使用者と連絡が取れず、かつ、縁故者から何の申し出もなく3年以上経過したとき。

(2) 使用者が使用権を放棄したとき。

(管理者による契約の解除)

第18条 使用者が暴力団等の反社会勢力であると判明したときは、書面をもって、契約を解除することができる。

2 前項に規定する場合のほか、使用者が次の各号の一に該当する場合には、管理者は相当の期間を定めて債務の履行を催告し、その履行がないときには、書面をもって、契約を解除することができる。

(1) 第3条または第10条第3項に規定する使用の目的に違反して墓所を使用した場合

(2) 第10条第2項及び第4項並びに第15条の規定に違反して、古墳墓を使用する権利を他人に譲渡し、又は他人に古墳墓を使用させた場合

(3) 他の使用者の信仰を侵害し、あるいは近隣に重大な迷惑が及ぶ行為をした場合

(4) その他、使用者が重大な違反をした場合

(使用者による契約の解除)

第19条 使用者は、書面をもっていつでも契約を解除することができる。

2 前項の場合においては、使用者は既に支払った使用料及び諸費用の返還を請求することはできない。ただし、古墳墓に焼骨を埋蔵していない場合において、使用者が既に使用料を納付しているときは、契約成立後1年以内に契約を解除する場合に限り、管理者は、当該使用料の8割に相当する額を返還するものとする。

3 既納の諸費用は返還しない。

(古墳墓の返還)

第20条 第17条又は第18条によって使用権が消滅又は契約が解除された場合、使用者であった者又はその祭祀承継者（以下「元使用者等」という。）は、管理者の定める手続きを経て、承諾証を管理者へ返還し、速やかに個別安置埋葬の前室に安置された焼骨を引き取るものとする。

2 消滅又は取り消された使用権は、管理者へ帰属するものとする。

3 既納の使用料、その他の諸費用は返還しない。

4 元使用者等が前第1項に定める義務を履行しない場合において、契約終了後3年経過した場合には、管理者は、法令の規定による改葬手続きを経て埋蔵された焼骨を古墳墓内の合同永眠埋葬に移すことができる。

5 前項の場合においては、管理者は実費を元使用者等に請求することができる。

（不可抗力等による事故の責任）

第21条 通常の責を超えた天変地異不可抗力、あるいは暴漢、暴動等第三者の行為に因る損害については、管理者は一切の責任を負わない。

（焼骨の埋蔵・改葬等の手続）

第22条 使用者は、古墳墓に焼骨の埋蔵又は改葬等を為す場合は、管理者の定める手続きを経なければならない。

2 焼骨の埋蔵に際しては、所管庁発行の埋（火）葬許可証、改葬許可証または分骨証明書を当日までに管理者に提出しなければならない。

（埋蔵、卒塔婆の制限）

第23条 古墳墓に焼骨以外のものは埋蔵できない。ただし、管理者の承諾を得たときはこの限りではない。

2 古墳墓に卒塔婆を供えることはできない。

（約款の改正等）

第24条 本約款に定めのない事項については法令の定めるところによる他、その都度管理者がこれを定め、本約款の細則を定めることができる。

2 墓地、埋葬等に関する法律等の現行法規が改正された場合や、社会の変化等により本約款の変更が必要と判断される場合は、管理者は必要な範囲内において、本約款を改正することができる。

付則1 本約款は令和7年9月1日に制定し、即日施行する。

大阪メモリアルパーク管理者 宗教法人不動教会